

「サービス提供責任者の役割とは」part2



～介護支援に必要な情報を記録・報告してもらうには～

東京都生協連では、会員生協の活動支援のひとつとして、地域における高齢者の暮らしを支えるホームヘルプサービス、介護の質の向上とよりよいサービスの提供につなげていくため、訪問介護事業所のサービス提供責任者を対象とした研修会を開催しています。

今回は「事実・行動・根拠」を的確に表現した記録とはどのようなものか、改めてサービス提供責任者自身が演習を通して考え、他の事業所の経験からも学び合える研修を企画しました。



司会の力石さん

日時:2014年2月18日(火)

10:00~16:30

会場:東京都生協連会館3階

主催:東京都生活協同組合連合会

参加者:28名 内訳:受講者10生協24名、事務局4名

講師:佐々木 由恵氏 <日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉援助学科教授>

..当日の流れ..

- 10:00 開会挨拶
- 10:15 講演  
「サービス提供責任者の役割とは」
- 12:05 昼食休憩
- 13:05 のびのび3Q体操
- 13:35 グループワーク
- 15:30 発表
- 16:10 講評・修了式
- 16:30 修了



講演:「サービス提供責任者の役割とは」part2  
～介護支援に必要な情報・報告してもらうには～



アシスタント  
神山さん



開会挨拶:本光さん

記録用紙は病院ごとに違い、記録から判断出来ず、介護現場に活かされていず、発展途上である。2年計画で先生が立ち上げたプロジェクトの所にも、ヘルパーさんから“記録”についての悩みが出される事が多い。深まれば深まる程出てくるので、少しでも明日から記録に活かせる事があればと思う。

今日は、同じ事例を見てどこを書くか、何が大切かという事を考えてみたい。

生活課題を抽出し、手足となり動いてくれるヘルパーさんに伝えるためには、プラン・目標に向かって何を得られたかがわからないと次につながらず、記録に何が足りないかが出て来ないと同じ事になってしまう。利用者の状況・生活実態を残す事その事がプロとして仕事をした成果・結果につながる。



介護職は、利用者の状況変化を最初に捉える立場にあり、一連の介護課程のすべてを記録する責任がある。介護記録の重要な視点・介護の実践を明示する。提供するケアの根拠をしめす。チーム間・利用者・家族との情報交換の手段。利用者の状態・経過に関する情報を提供。利用者に必要とされたケアに対する介護実践と反応に関する情報提供。施設・事業所が施設要件や介護保険報酬上の要件を満たしている事を証明する。ケアの評価・質の向上・ケア開発の資料とする。記録は介護職の思考と行動を示すもので、他のケア提供者との情報共有や継続、ケアの評価・向上・開発につながる大切な資料となる。

経過記録を記載する目的：この目的を達成させるために、利用者の経過をどのように書くかが重要となる。経過記録様式で最も多いのは“5W1H”形式で、看護職と介護職が経過記録を共有している場合は、5W1HとSOAPの形式が混在している物もあった。

SOAP=S：事実。 O：客観的に。 A：観察。 P：実践。

記録を残す：利用者の生活の証を書き、ケア提供者の支援の証を残す2つの意味を持つ。

認知症ケアの記録から見えてきたもの：利用者の状況に対しどうしたかの対応は書いてあるが、実践の根拠となる記載がほとんど見られなかった。用語使いが書き手によって違う・・・これは用語概念が違っている事が要因となっている事が考えられる。看護職と一致していない場合もあるが、役割によって行動が変わってくる事を認識し合えばお互いの理解につながる。介護職の教育がさまざまであり、介護記録についての学習が不十分で、各事業所が記録のための観察方法やケアの根拠等について継続的に教育を実施しない限り、介護記録の水準は上がらない。

記録用紙の開発や記録の教育と並行して、記録に使う用語の意味を整理していく事が重要課題。



事例を見ながら、短冊シートに記入  
・観察 ・行動 ・根拠を書き出す。  
事実と主観を一緒にしない事が大切！



お昼休みの後は3Q体操

グループワーク：

「各事業所の記録事例をもとに、必要な情報の記録について考えてみよう」

\*事例を持ち寄り、自分ならこう思う！ポイントは？などを出し合いました。

・その人にとって求められる環境・過ごしやすい環境に対しても、ヘルパーさんへの具体的に提案しないと理解につながらず、提供したケアの質を評価できない。生活の質(QOL)の向上につながらない。看護師と一緒に入る時にはサポートが利用者さんに利益が出るように、より生活しやすいようにする。本人の意向に沿ってのプランだという事を改めて気づいた。

安心って？



♥ 先生から・・・ヘルパーさんを書いてもらいたい事は具体的に話す。そうすれば利用者さんに、しっかり返せる。プラス思考でアドバイスを。サ責の仕事の多さに対しての社会的地位が確立されていないので、声を出していこう！と話されました。

\*アンケートより\*

(19枚提出)

[講演を聴いて]

- ・サービス提供責任者の重みを再度、思い知らされた。
- ・記録の内容は事実に基づき、客観的な視点が必要。
- ・記録を観察・行動・根拠で捉える。

[グループワーク]

他の事業所の事例を共有し、問題点は共通していると感じた。

- ・何度も出てきたが「具体的に」に、プロとしての視点でヘルパーに指示を出せるよう、日々の勉強が必要である。



(柴田さん)



(塩野さん)

企画委員の柴田さんからの講評のあと、サービス提供責任者スキルアップ研修を終えた受講生の皆さん一人ひとりに、実行委員長の本光さんから修了証明書が手渡され、最後に企画委員の塩野さんの閉会挨拶で終了しました。

記録に対して答えがある訳ではないが、答えが欲しいならサ責も勉強をしなければ・・・などの声も上がり、これからの学びにつながる研修でした。

